

巻頭言

病院事業管理者 平 幸 雄

仙台市立病院医学雑誌第 17 巻の発刊に当たり巻頭の言を述べさせていただきます。

永年にわたり本誌編集の中心にあって活躍された古川洋太郎先生が定年で当院を去られた後、後任の役を引き受けられた東岩井副院長始め編集委員の諸先生の努力によりここに本巻が刊行されました。日常業務繁多のなか、本当にご苦労様でした。今後ともよろしくお願い致します。

さて、医療は社会情勢の変化につれその変貌が求められて来ております。一方、平成 8 年も医療を取り込んだ厳しい課題が次々と提示されました。極く身近には我々も経験した非加熱血液製剤による HIV・AIDS 感染問題、O-157 に代表された病原性大腸菌感染症（溶血性尿毒症）問題、さらに人口の高齢化に伴う諸問題、厚生官僚の汚職等、決して明るい一年ではなかったと思います。平成 8 年度の厚生白書では更なるより良い医療を目指して、前年度に引き続き国民の医療ニーズの多様化、保健・医療・福祉の連携、遺伝子治療、情報等技術の進展等に社会情勢の予測を加えての保健医療サービスの提供体制の構築の必要性を述べております。

病院医療をその地域に於いて展開するには、まず第一には地域における存在価値の確立であり、次に提供する医療の質の確保であり、そのための効率を上げる事であります。全人的医療が求められている今日、当院に於ける多くの臨床部門がその専門的知識・技量を集約し、それらを患者さんの治療に互いに投入し合いながら治療の目的を達成できればこんな素晴らしい事はありません。時代の流れを汲みながら、我が病院もその目的達成に周りの医療・保健・福祉の環境との連携を密に形成して行かねばならない時になっていると理解しております。それ等を考慮しながら私達に益々の研鑽が求められております。皆で最高のチームワークを果たして参りましょう。

我が病院に於いては自治体病院の使命・役割を職員全体が理解し、全うすべく頑張っていることは行政、市民に皆さんからご理解頂いている事と思っております。更なる評価を戴けるべく努力を尽くして行きます。

前にも述べましたが、我が病院に課せられた大きな使命の一つに患者さんに最新で最高の適切な医療の提供があります。そのためには職員が自からの資質向上のために努力が必要です。院内各部門に努力の跡が見られる事は大変嬉しい事です。その一つに剖検数を見ますと平成 7 年の 24 例（剖検率 6.7%）から平成 8 年は 49 例（同 12.5%）に増えた事にも関係部門のその努力の現れが見られます。学会活動も例年のごとく院内各部門とも活発に行われ、本誌以外の内外の専門誌への投稿、掲載が見られ大変嬉しく思っております。院内においても病理科を中心に CPC や症例検討会が定期的に行われており、また看護部を始め co-medical 部門でも実際的な医療技術の向上のための自己研修を行っており、医療の責を負うものとして誠に心強く感じております。そこでこれからもどんどん発達して行くで参りましょう情報機構を大いに活用しながら、当院で経験された貴重な症例を登録したり、論文に表す事は医学、医療の向上のためには極めて大切な事であり、医療人としての責務でありましょう。本誌の更なる充実を望んでやみません。